

5. 今後に向けて

重信川では、洪水から貴重な生命、財産を守り、地域住民が安心して暮らせるように社会基盤の整備を図る必要がある。

また、河川は多様な生物の生息、生育、繁殖の場であり、河川環境を保全していくためには、河川における取り組みと流域における取り組みを流域全体で推進し、自然と共生する川づくりを行うことが重要である。

さらに、人と河川との豊かなふれあいの場やレクリエーション、環境学習の場など、多くの人々が、より一層川に親しめるように適正な河川利用を図り、人と川、地域と川とが共生する川づくりを行うことが重要である。

そのためには、地域住民、自治体、関係機関、河川管理者等が、重信川流域の情報を共有し、連携、協働して取り組んでいくことが不可欠である。

5-1 地域住民、関係機関との連携、協働

洪水による被害の発生を防止、軽減するためには、関係機関が受け持つ責務を果たすとともに、相互に連携し、協力して防災対策に取り組むことが必要である。

防災に関する情報を適切に活用するためには「知らせる努力と知る努力」が重要である。

また、河川は多様な生物を育む地域固有の自然公物であり、河川環境は流域環境と一連のものである。河川環境を保全していくためには、河川における取り組みと流域における取り組みが一体となって進められることが重要である。

このため、地域住民、市民団体、学識経験者、自治体、河川管理者等が重信川流域全体の観点からこれまでの取り組みに加えて、各々の役割を認識しつつ、より一層連携、協働した取り組みを行うよう努める。



重信川の自然をはぐくむ会



重信川エコリーダーの活動

5-2 河川情報の発信と共有

治水、利水に関わる情報、自然環境や河川利用状況に関わる情報等を迅速かつ正確に収集、整理し、効率的に発信するとともに、関係機関や地域住民と重信川流域に関する情報を共有できるような施設整備、体制づくりを進める。

また、約 400 年前から始められた、流路の付け替え、築堤や、水制、霞堤などの重信川の治水の歴史とその意義は、今後地域住民の人命と財産を守るにあたり重要であるため、この歴史を次世代に伝える方法を検討する。

5-3 IT（情報技術）の活用

防災に関する河川の情報については、河川水位、映像等各種情報の提供体制が整いつつある。一方、家屋や道路の浸水状況、住民の避難状況等の情報の収集、共有は、技術的に難しい課題を有していることから、地域、自治体、河川管理者等が協力して、様々な手段を用いたリアルタイムの情報収集、共有体制について調査、研究を進める必要がある。

5-4 河川整備の調査研究

河川に関する調査研究は、これまで治水、利水を中心に行われてきた。一方、近年は自然環境に対する意識の高まりによって河川やその周辺の動植物の生息、生育、繁殖環境に関する情報の収集、蓄積や調査、研究が進められているところである。さらに、近年、河川の機能として注目されている土砂移動についての調査、研究が進められている。

このような背景のもと、重信川では、流域全体の土砂動態などの研究に加え、水制工などの歴史的工法の効果を含めた局所的な深掘れなどの研究や、河川流量と伏流水、瀬切れとの関係性などの水循環に関する研究は、今後もさらに進める必要がある。

また土砂の移動や堆積と河川やその周辺の動植物の生息、生育、繁殖環境の関係などについては、調査、研究の成果を事業計画に反映するための科学的な知見が十分にあるとは言えない。そこで、このような項目について、今後も、教育、研究機関と連携し、調査、研究を進める必要がある。

5-5 森林について

森林保全への取り組みについては、土砂流出の防備機能等の保全が図られるよう、森林整備を実施している関係機関との連携に努める。